



11月1日

「学びの杜ののいち カレード」オープン

ごあいさつ

平成 29 年 11 月 6 日

皆さん、大変長らくお待たせいたしました。11月1日、ようやく「学びの杜ののいち カレード」がオープンいたしました。

今年は3月の全国椿サミット、7月のじょんからまつり、そしてカレードのオープンと大きな行事では、すべて快晴に恵まれました。午前10時のオープニングセレモニーの後、たくさんの市民の皆さんがお越しになられ、夕方になっても来館の皆さんの流れが途絶えることはありませんでした。これだけ待ち望まれていたのだということで、感激もひとしおです。

10月28日に竣工式を終えてからの数日間、私自身も大変忙しく、カレードからのテレビ局の生放送などに数本出演し、オープン当日は生放送も含め、報道各社の取材に囲まれました。報道の取材は慣れているのでは、と思われるかも知れませんが、こんなことは毎日ありません。日常とは随分かけ離れた状況におかれて、まるで夢を見ているような一日でした。市民の皆さんだけでなく、周辺からの注目を浴びている施設であることをあらためて認識いたしました。

カレードについては、国の認可をいただき3年間の事業として地方創生応援税制、いわゆる「企業版ふるさと納税」の制度を利用して、多くの企業様よりご厚意をいただいております。このご寄付で図書の購入や、図書と創業支援事業を融合させて、本市の地域産業を活性化する取り組みとして進めることを考えています。企業様の納税の申告の際も、通常の倍の優遇措置を受けられることになっており、画期的な取り組みであると思っております。

また、かねてから要望していた地方創生推進交付金が、ほぼ満額採択されました。これにより旧北国街道を舞台とした「野々市版コミュニティ・リビング」創出プロジェクト、野々市中央地区整備事業の仕上げに取り掛かることができます。旧図書館と中央公民館の跡地に、地域中心交流拠点施設として生涯学習、市民活動、民間商業施設が融合した、ひとつくりと賑わいを創り出すことを目的とした施設の整備です。

文化会館と連携したカレードによる「文化交流拠点」と、平成31年3月に完成予定の「地域中心交流拠点」、この拠点を結びつけることにより、そこを動く「線」ができます。このような「線」がいくつかできることにより、「面」として地域がうまれてきます。その地域への帰属意識や、そこを心地よくしたいという気持ちが、まちづくりの根幹になると考えています。その気持ちがこれからの野々市を支えていくものであり、今更ながら「住んでよかったまち」にするための努力をおろそかにはできないと思っております。

「学びの杜ののいち カレード」は、野々市市にとっては大きな自信となります。利用される市民の皆さんにとっても、このような新しい形の施設を利用いただくことは、これまでの日常的生活で大変刺激になることと思います。

開館記念講演会で、本市出身の米林宏昌監督が『メアリと魔女の花』のなかの「時間がかかっても魔法を使わず扉を開けなければならない」という一節を挙げられました。まちづくりも同様、魔法もかけずに自分たちの力で、これからも着実に進めていかなければなりません。

市民の皆さんのさらなるご理解と、ご協力をよろしくお願いいたします。